

日本470協会 理事会 追加審議

2010年6月15～25日（最終決定25日）
日本470協会理事マーリングリスト上
マーリングリスト参加者： 全理事

1. 背景

海外遠征支援は2チームが応募・承認されたが、資金的な制約もあり、当初の狙い通りの十分な支援ができているとはいえない。

トップ層を支援することを起点にして、その経験とノウハウをミドル層以下にフィードバックしてもらうことで全体の底上げ・活性化を狙っていたが、現状では効果は限定的になる可能性が高いのでプランの修正が必要。

2. 課題

- ①NTなどトップ層の資金難で海外遠征ができない
- ②学生・社会人ミドル層以下の活性度・レベルが落ちている
- ③実業団・社会人チームが激減
- ④学生トップ層の全日本470への出場が少ない（レベルアップの機会損失）
- ⑤女子チームの次世代が育っていない

3. 対策

- ①の対策として「海外遠征支援」実施中
- ②の対策として「フリートレース支援」実施中
- ③の対策として今年度、実験的に関東470予選で関東実業団との共同開催を実施。
全日本実業団のバックアップを行う。
<http://www.kanto470.org/modules/eguide/event.php?eid=3>
来年度以降、他水域でもタイアップを検討していく。

4. 検討事項

残り④⑤の課題には、上記背景から別途対策を補強することが必要と考える。

④は各大学ヨット部の方針や資金的な問題もあるが、全日本470に積極的に誘導する仕組みが必要。

全日本470の前に実施されている強化合宿に参加できるとさらに良い。

⑤は他のクラスが女子の取り込みを積極化している。

全日本女子470が全日本470と共催になってから敷居が高くなっていて次世代の女子チームが育っていない。

各水域からの推薦で対応していたが、明確に選手に伝わる「女子枠」を再定義する必要がある。

5. 決定事項

④学生トップ層対策

- ・「全日本学生ヨット個人選手権大会」470 級上位 3 艇に全日本 470 の出場権枠を与える
- ・「全日本学生女子ヨット選手権大会」470 級上位 3 艇に全日本 470 の出場権枠を与える

※ただし辞退したり水域枠と重なった場合に繰り下げるのか否か、繰り下げる場合のルールはこれから検討。

- ・全日本 470 の前に実施されている強化合宿への参加権を与える
→今後、強化とすり合わせ検討していく。

⑤次世代女子チーム対策

- ・全日本女子 470 に水域枠を設定する。
- ・全体で 15 枠を基準とし、水域別の配分は全日本 470 の水域枠の比率に準拠させる。(添付ファイル参照)

※今年の西ノ宮の場合

北海道 (1) 東北 (1) 関東 (5) 中部 (2) 近北 (2) 関西 (2) 中国 (1)
四国 (1) 九州 (2)

※荒天時の安全対策はこれから検討。

- ②レース委員会が危険と判断するチームに出艇禁止の勧告をすることで対応する
- ③各水域で枠に応募した選手とレースのレベルについて事前にすり合わせを行っておく など

※来年度は各水域の女子チームの活動艇数に応じた水域女子枠を検討するなど修正する可能性あり。

- ・全日本 470 開催時に女子チームの懇親会など検討する。